

厚生連魚沼病院と公益財団法人小千谷総合病院が統合し新しくスタートを切ってから早4年目となりました。開院当初より各医療機関、施設の皆様から診察、検査のご依頼を沢山頂戴しておりますこと心より感謝申し上げます。今後も受診申し込み、検査依頼等円滑に進められるよう努めてまいりますので引き続きよろしくお願いいたします。

あらためて今回、当患者サポートセンターでお申し込みいただいております検査をご案内いたします。

放射線科	CT MRI 核医学検査	所定の申込用紙があります
	骨塩定量検査	委託契約検査
	胸部レントゲン	※施設利用者健康診断レントゲン撮影時、90度座位がとれない方のご依頼のみ 「紹介患者事前申込書」にて申し込み。ご紹介目的の欄に「利用者定期健康診断」とご記入ください
検査科	超音波検査 ・心臓エコー ・腹部エコー ・甲状腺エコー ・頸動脈エコー ・下肢静脈エコー	所定の申込用紙があります ※下肢動脈・腎動脈エコーご希望の際は お電話にてお問合せください
	神経伝導速度検査	委託契約検査
	ポリソムグラフィー検査	「紹介患者事前申込書」にて呼吸器内科もしくは耳鼻咽喉科に受診申し込み ご紹介目的の欄に「睡眠時無呼吸症候群疑い」とご記入ください
内視鏡室	胃瘻チューブ交換	所定の申込用紙があります
耳鼻科外来	嚥下内視鏡検査（VE）	「紹介患者事前申込書」にて耳鼻咽喉科受診申し込み ご紹介目的の欄に「嚥下内視鏡検査依頼」とご記入ください
栄養科 リハビリテーション科	栄養相談 運動療法（にこトレ）	「紹介患者事前申込書」にて内科・田沼厚人医師の診察日をご記入後、 ご紹介目的の欄に「栄養相談依頼」又は「運動療法依頼」とご記入ください

☆ 骨塩定量検査、神経伝導速度検査におきましては事前に委託契約を取り交わさせていただいております。

検査ご希望の際は患者サポートセンターへご連絡をいただければ手続きをさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

地域の医療・介護関係者の連携窓口として今後もできる限りご要望にお応えしたいと考えておりますので遠慮なくお問い合わせください。

JA 新潟厚生連小千谷総合病院 患者サポートセンター

TEL : 0258-81-1616 (直通) / FAX : 0258-81-1602 (直通)

～骨塩定量測定を開始しました！～

地域医療機関の皆様方におかれましては日頃より小千谷総合病院放射線検査をご利用いただき厚く御礼申し上げます。

これまで当院ではCT、MRI、核医学検査について検査予約を受け付けておりましたが、この度「骨塩定量測定」もお受けできる事となりました。

今日は骨塩定量測定について、最新のガイドラインである「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年度版」(以下ガイドライン)を引用しながら、当放射線科の骨塩定量測定についてお話ししたいと思います。

普段、外来の撮影をおこなっていると圧迫骨折をされた方に遭遇します。「漬物石を持ったら、誰かに背中を叩かれたらと思った」脊椎の圧迫骨折が起こった瞬間です。「毎日やってることやっただけなんにお」そうなのです。日々気づかないうちに骨密度が低下し、ある時破綻し骨折が起こります。また、転倒によって股関節の骨折も起こります。これらの骨折により長期の療養を余儀なくされ体力を落としてしまう、認知症が進んでしまう。

事前に予防したいものですが、ご本人が日頃から気を付けておられても骨粗鬆症は進んでしまうものです。ではいつ頃から気をつけるものなのか・・・。

ガイドラインでは骨密度測定を行う対象について、(骨粗鬆症治療を行う可能性がある症例で)65歳以上の女性と70歳以上の男性をあげ、このほかに65歳未満の閉経後から周閉経期の女性や70歳未満の男性であっても危険因子を有する方は対象になるとしています。ここで言う危険因子とは①過度のアルコール摂取(1日3単位以上)、②現在の喫煙、③大腿骨近位部(股関節)骨折の家族歴を指します。このほか脆弱性骨折をしたことがある方、骨粗鬆症をきたす病気にかかっている方、それを引き起す薬剤を投与されている成人などを対象にあげています。

ガイドラインの対象からは中高年の病気というイメージになりますが、最近では極端なダイエットなどによって若年層や20代の女性でも骨粗鬆症が見られるようになってきていますので注意が必要です。

骨密度の測定法はDXA(デキサ)二重エネルギーX線吸収測定)法が標準とされ、当院装置もこのDXA法で測定画像を収集しています。測定部位は腰椎と大腿骨近位部の両者を測定することが望ましく、男女共に腰椎と大腿骨近位部(股関節)の骨密度を用いることになっています。ただ、ご高齢の方では腰が大きく曲がっていたり、すでに圧迫骨折があったり、椎体固定の金具などある場合がありますし、股関節にしても既に手術をして金具が入っている場合もあります。このような測定に適さない部位がある場合には、腰がダメな場合は股関節、腰も股関節もダメな場合は前腕骨を用いての検査になります。当院装置はすべての部位の撮影に対応しておりますので、ご予約の際に自由に指定していただくことが可能です。

骨密度の診療は長期に渡る経過観察が必要となるため、再現性のある測定を行うためには機器の精度管理が重要となります。ガイドラインではこの精度管理について、①装置付属のファントムを用いて定期的に少なくとも1週間に1回施行すること。②結果をプロットし総括すること。など挙げています。当院では毎朝、装置付属のファントムを用いた機器チェック、キャリブレーション、プロットを行い測定の品質管理に努めていますので安心してご利用いただけます。ここまでガイドラインを中心にお話しさせていただきました。

さて実際の測定についてですが、当院で使用している装置はGEヘルスケア社製PRODIGY Advance-Cとなります。患者様は始めに寝ていただいたままの体位で腰、股関節の測定を一度に続けて行えますので検査時間も短く済み、負担も少ない検査となっています。検査時間は入室から約10分程度。被ばく線量は非常に少なく一般的な胸部撮影よりも少なく済みます。

検査結果はレーザープリンタにより、カラーで色分けされた測定結果グラフに加え、測定画像には計測ラインを表示して印刷されますので分かりやすい仕様となっています。また、同様に患者様用の結果用紙もお渡しできますので、患者様ご自身の結果管理にも最適です。

骨塩定量測定をはじめ、CT、MRIは当日の申し込みでも可能な限り受けさせていただきます。どうぞご利用ください。

最後にこの春から施行された「診療放射線の安全利用のための指針」に対する当放射線科の取組みをご紹介します。この指針は診療を受ける患者様が、管理されない過剰な被ばくを受けることがないようにするものです。線量の管理を要求されるものに当院ではCT、核医学検査があります。

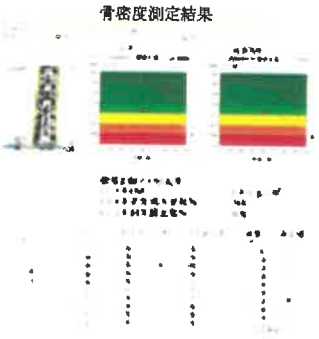
CT装置はGE RevorutionEVOを使用。被ばく低減技術を利用し、CT専門技師の管理の元に考えられたスキャンプロトコルを使用し、診断参考レベル以下の被ばく線量の検査を行っております。核医学検査についてもすべての検査において診断参考レベル以下の投与量であることを確認しています。また一般撮影系についても全室フラットパネルディテクタ(FPD)の使用により、従来よりも低線量の撮影を実現しています。

今後も患者様にやさしい検査、対応を心がけて参りますのでよろしく願いいたします。

今回は新たに検査ご依頼が可能となりました「骨塩定量測定」についてガイドラインと共にご紹介し、併せて当院放射線科の被ばく低減の取組みをご紹介します。今後とも小千谷総合病院放射線検査をご利用頂きますようよろしくお願い申し上げます。



GE社製PRODIGY-C



骨密度測定結果

放射線科技師長 若山 隆夫



前号（第16号）で「当院の入退院支援の取り組みについて」ご紹介しましたが、その中でも今回はリハビリテーション科がどのように関わり、支援をしているか現状等を含めお話しさせていただきます。

リハビリテーション科の退院支援と訪問リハビリテーションについて



小千谷総合病院では、理学療法士12名、作業療法士6名、言語聴覚士2名で患者様のリハビリテーションを行っています。リハビリテーション科では、入院直後より関係する多職種と患者様の状態を共有し退院支援を行っています。自宅で生活を送るために必要なサービス（デイサービスやデイケア、ホームヘルパー、訪問看護、訪問リハビリテーションなど）の検討や、必要に応じて患者様の状態に合わせた福祉用具の選定や住環境の確認のため自宅訪問も行っています。また、ご家族様やケアマネージャー様へリハビリテーションの場面を見学していただき、患者様の現在の状態や今後の見通しなどを説明するリハビリ見学も行っています。

当院は高齢で介護保険利用の患者様が多いため、こうした情報をケアマネージャー等の関係者に提供し、退院後自宅での生活がスムーズに送れるように支援しています。

また、当院では自宅退院後、リハビリテーション継続の必要性がある場合、切れ目のないフォローアップ体制として訪問リハビリテーションを行っています。訪問リハビリテーションは、自宅で個別の機能訓練も行いますが、日常生活の不自由の解消などを中心に介入していくようにアプローチし、住み慣れた自宅での生活へソフトランディングさせ、その生活を長く継続していただくことを目的としています。自宅で生活している方で介護保険を持っており、日常生活に不自由がある通院困難な方に関しては、ケアマネージャーから情報をもらい必要性を判断のうえ介入します。

訪問リハビリテーション介入にあたってはまずは訪問リハビリテーション担当者にご一報ください。そこで訪問リハビリテーションの必要性、目標を明確化したうえで、訪問リハビリテーション介入の手続きを進めさせていただきます。

ご不明な点等ありましたらリハビリテーション科の訪問リハビリテーション担当者にご連絡いただければ対応しますのでよろしくお願いいたします。

訪問リハビリ担当 大平雄也



編集後記

暑い夏がやってきます。今年はコロナ渦での夏となりますが、せっかくの夏を楽しみたいものですね。皆様、健康に留意されまして、それぞれの夏をお楽しみください。

